

森林の 施業管理

スギ・ヒノキの大径木を育てる！

～ 40年から始める長伐期施業をめざして ～

研究の背景・目的

一般的にスギやヒノキは、幹の太さが30cmを越えるような大径木になると木材としての価値が高まります。しかし、大径木を育てるには少なくとも80年程度の年月と適切な管理が必要となりますが、その管理方法は確立されていません。

これは、島根県のスギ・ヒノキ人工林の多くは、植えられてから40～50年で伐ることが前提だったため、その管理方法も40～50年までしか作成されていないことによります。

本研究では大径木の育成を目的とした40～50年以降の森林管理について研究を行っています。



97年生スギ人工林(飯南町頓原)

研究方法

県内のスギ・ヒノキ人工林の中から調査地を選び、木の大きさ(高さ・太さなど)や手入れの状況を調査します。

(調査の流れ)

- ①スギ・ヒノキ人工林の調査
- ②調査結果より森林のタイプ分け
(大径木の育成が期待できる森林、大径木の育成が困難な森林)
- ③タイプごとの管理方法の提示

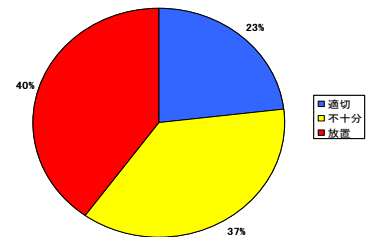


図-1 スギ人工林の管理状態(36～45年生)

研究状況と結果

大径木の育成が期待できる森林は、これまで適切に管理されてきた森林でなければなりません。大径木を育てるための管理方法は間伐が中心であり、その実施時期、間伐量、回数をどうするかに尽きるからです。したがって山に植えてから40年以降の管理を考える上でも、40年生時の森林の状態が重要となってくるわけです。

県内の36～45年のスギ人工林150か所で森林の管理状況を調査した結果、手入れの状況が適切な森林は全体の23%でした。手入れはされているものの不十分な森林が37%、まったく手入れがされておらず放置されている森林は40%を占めました(図-1)。

このことからすると、大径木の育成が期待できるのは一部の森林に限られると言えそうです。しかし、その育成方法は現在の管理状態だけでなく、経営面なども考慮していく必要があると考えます。



適切に管理された森林



放置されていた森林

研究結果の活用

研究の成果を以下のパンフレットにまとめました。

・「島根のスギ長伐期施業 -高齢林実態報告書-」(H18)

森林所有者に目標とする森林の姿とその管理方法を提示することで積極的な大径木生産を推進します。



MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

所属グループ 森林保護育成グループ

担当研究者 舟木 徹(ふなき とおる)

問い合わせ先 0854-76-3820

E-mail: chusankan@pref.shimane.lg.jp